

中学生の「税についての作文」 管内青色申告会連合会会長賞など6名が入賞

国税庁と全国納税貯蓄組合連合会が主催する、中学生の「税についての作文」について下川町も共催し募集を行いました。これは、将来を担う中学生の皆さんが身近に感じた税に関する事、学校で学んだ税に関すること、テレビや新聞などで知った税の話などを題材とした作文を書くことで、税についての関心を持ち、正しい理解を深めていただくことを趣旨として行われているものです。

本町からは、下川中学校3年生22名の応募があり、次の優秀作7作を選考し、表彰及び記念品の贈呈を行いました。

名寄税務署管内青色申告会連合会会長賞

小西 琉椰 さん

公益社団法人名寄地方法人会会長賞

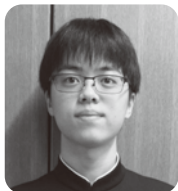
津志田 紗 さん

下川町優秀賞
板橋 太一 さん
遠藤 翔 さん
佐藤 大 さん
清水 大聖 さん
松田 さん



名寄税務署管内青色申告会
連合会会長賞

「税金と私たちの暮らし」



下川中学校三年
小西 琉椰

「消費税って高くない？ほんとにこんなに必要なの？」と、私は税金に対して多くの文句があった。私だって、税金が暮らしをよりよくするためや年金のような福祉など、国民のために有効活用されているだろうということはわかっている。それでも私はこんな高い消費税払いたくはないと思っていた。

そこで私は、他国の消費税を調べてみたが、カナダや中東では0%と消費税がなくても国を運営できるということに気づいた。だからこそより消費税の必要さを気になってしまった。

そんな時に、私はテレビで参

議院選挙をやっているのを見た。そこでは自民党をはじめ多くの党が減税政策を進めようとしている姿が見られた。それを見た時、私は税金に関して疑問を抱くことは決して悪いことではないし、そういう考えが国を良くしていくことにつながっているんだということに気づいた。そうして税金について考えていくうちに、消費税だけでなく、税金をなくすというのは本当にいいのだろうか、という疑問が浮かんだ。

そこで、税金がないとどうなるか調べていくと、ある一つの国の名前が出てきた。

ナウル共和国である。ナウル共和国はリン鉱石の採掘で栄えた国だ。この国は税金がなく、教育費や医療費なども全くない。そんな国では働かずに食べていけるような状態が続いたにもかかわらず、努力もせずただ自堕落に生きていくしかできない民族となってしまった。そこで財源がなくなった時、彼らは、もうどうやったら働かずに食べていけるのだろうか、と考

えるしかなくなるまでになってしまったそうだ。

このように、税金が全くないのは国民を悪い方向に追いやることしかないのだ。ということ調べていくにつれて気づくことができた。

日本は今、社会保険などをはじめとする社会保障に最も多くの税金を使用している。社会保障がなくなると、高齢者や障害者などの自力で働くことが難しい人たちが除け者のような不当な扱いをされ、切り捨てられることになるだろう。

他にも、私たちが今行っている学校だって税金が使われている。税金は人々が生きていくために必要不可欠なものなのだ。

税金はどうしてもせつかく頑張つて働いて貯めたお金が取られてしまうような悪いイメージが感じてしまうかも知れない。

しかし、税は日常のあらゆるところに使われている。だからこそ自分のこれからのためにも、しっかりと税金について疑問に思うことが税金についてしっかりと理解してくれることに繋がると思う。

そして、しっかりと意味を理解して納税できるような人が増えることで国がもっと良くなると思う。

公益社団法人
名寄地方法人会会長賞

「税金の変化」



下川中学校三年
津志田 紗

買い物をするときに必ず払っている消費税は、当たり前だと思っていました。しかし1989年に導入されるまでは存在していなかったそうです。親に『消費税って実は最初からあったわけじゃないんだよ。』と聞いたとき、私はとても驚きました。では、なぜもともとなかった消費税が作られたのでしょうか。調べてみると日本の社会変化が理由でした。高齢化が進み

買物をするときに必ず払っている消費税は、当たり前だと思っていました。しかし1989年に導入されるまでは存在していなかったそうです。親に『消費税って実は最初からあったわけじゃないんだよ。』と聞いたとき、私はとても驚きました。では、なぜもともとなかった消費税が作られたのでしょうか。調べてみると日本の社会変化が理由でした。高齢化が進み

お年寄りの医療や年金に必要なお金が増えていきました。最初からあった税金だけではまかないきれなくなり、全ての人が少しずつ公平に負担がかかる仕組みとして導入されたのが消費税です。消費税は、私たちの生活に欠かせないさまざまな分野に使われています。

教育の分野では、小中学校で配られる教科書が無償にしたり、学校の建物を整備するため費用に当てられています。私たちが当たり前のように新しい教科書を使って勉強できるのは、消費税を含む税金が支えていることを知りました。また、幼児の教育や保育園の無償化にも使われていて、子育てをする家庭の負担を軽くする役割もあるそうです。

医療の分野でも、消費税はとても重要です。病院での診察や手術には高額な費用がかかりますが、公的医療保険という制度があるおかげで一部を払うだけで治療を受けることができます。その制度を維持するためには、消費税は大切な財源となっています。特に高齢者や子供が

安心して病院に通えるのは、消費税をはじめとする税金のおかげなのです。このように消費税は、教育や医療といった私たちの生活の中で必要とする分野を支えるために使われています。物価が上がっている今の時代に消費税を払うのは家庭の負担となっています。100円の物を買うときに110円払わなければならぬのは、小さなことだけれど、積み重なると大きくなります。それでも、もし消費税が無ければ、学校の環境が整わなかったり、医療制度が維持できなかったりして、私たちの安心した暮らしは成り立たなくなってしまうと思います。私は、消費税が最初からあったわけではないことを知り、導入された理由や消費税が使われていることを調べる中で、その必要性を感じました。

消費税は私たちにとって負担である一方、教育や医療などの生活に必要な分野を支え、社会全体の安心を守るために欠かせないお金なのだと思います。